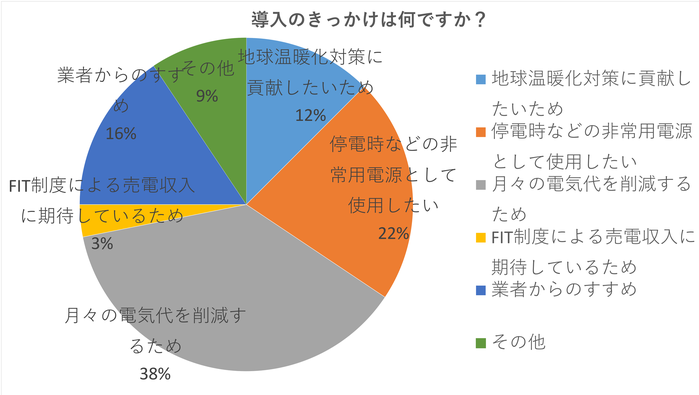
十日町市再生可能エネルギー活用促進費補助金
導入後アンケート集計結果（太陽光発電）

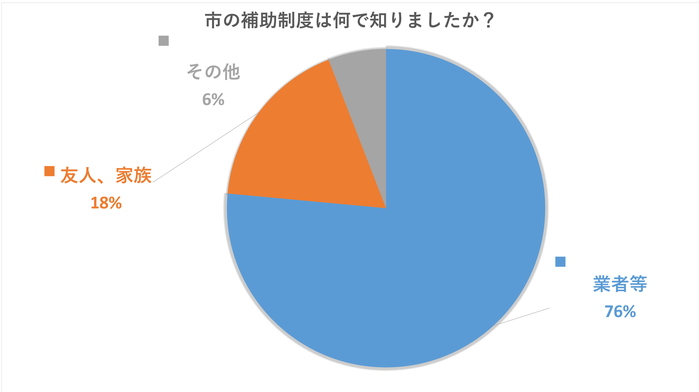
■調査期間：令和４年４月８日～５月９日
■調査対象：令和３年度設置者（補助金活用者）
■調査方法：郵送によるアンケートの配布と回収
■回収率：68％（対象者22人中　回答者15人）

Q1
導入のきっかけ



導入のきっかけは、「月々の電気代を削減するため」(38%)が最も多く、次いで「非常用電源として使用したい」(22%)が続きました。これらで全体の６割を占めており、経済性と災害対策を意識した導入が増えていることが分かります。特に、災害対策を意識した導入答が前回のアンケート結果（13%)よりも増えています。

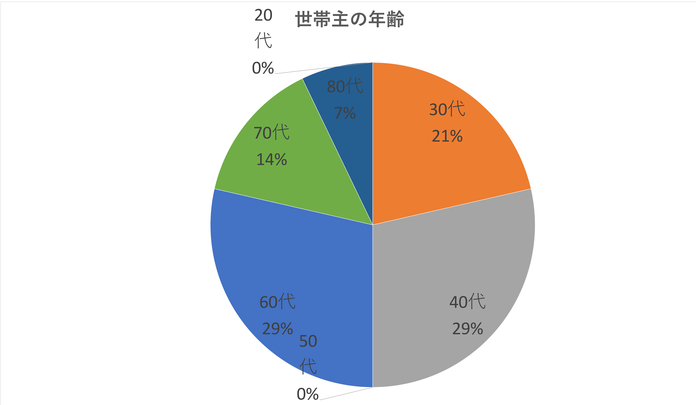
Q2
市の補助制度があることは何で知りましたか

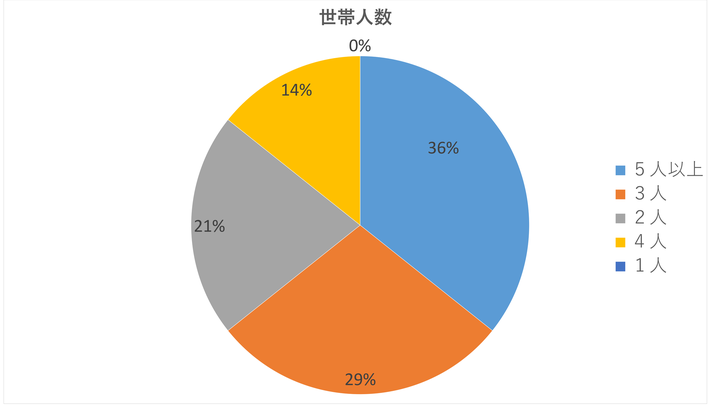


回答者の７割以上が、施工業者等を通して補助金の情報を得たことが分かります。

Q3、Q4

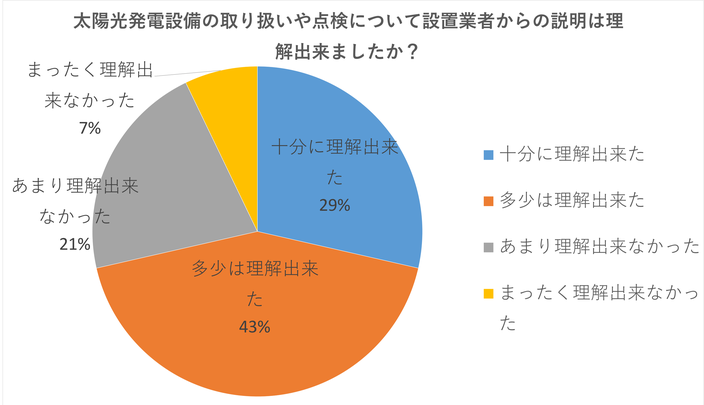
世帯主の年齢や世帯人数を教えてください





Q5

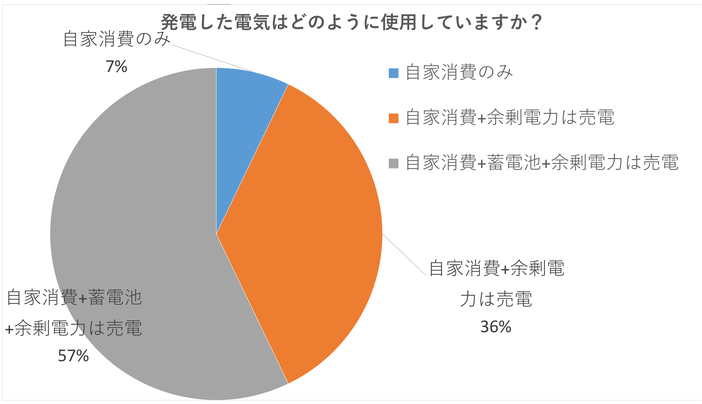
太陽光発電の取り扱いや点検について設置業者からの説明は理解できましたか



回答者の約７割は、設置業者からの説明に「十分に理解出来た」(29%)、「多少は理解出来た」(43%)と回答しており、設置業者からの説明をある程度理解した上で導入していることが分かります。設置後のトラブルを未然に防止するためにも、十分に説明を受け、検討した上で導入しましょう。

Q6

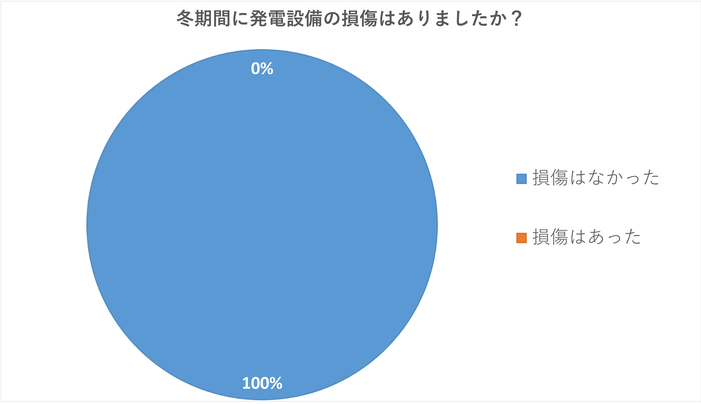
発電した電気はどのように使用していますか



回答者の９割以上は、自家消費と余剰売電を目的とした導入であることが分かります。

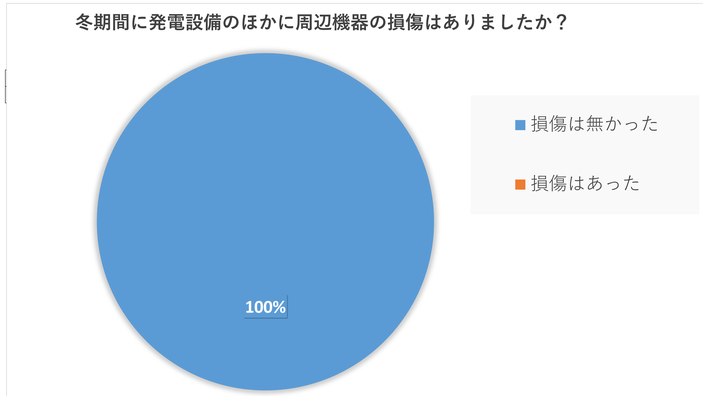
前回のアンケートでは、FIT売電を活用する導入割合が７割近くを占めましたが、今回のアンケートでは蓄電池を併設する割合が増加していることから、今後も防災意識やライフスタイルを反映した導入が増えていくものと予想されます。

Q7
冬期間に発電設備の損傷はありましたか



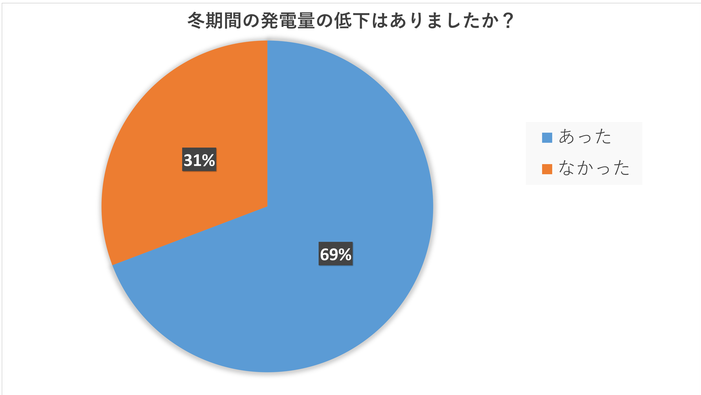
アンケート結果では、全回答者が冬季間に発電設備の損傷はなかったと回答しています。設置方法が落雪の支障となっていないかなど、積雪対策について設置業者とよく相談しましょう。

Q8
冬期間に発電設備のほかに周辺機器の損傷はありましたか



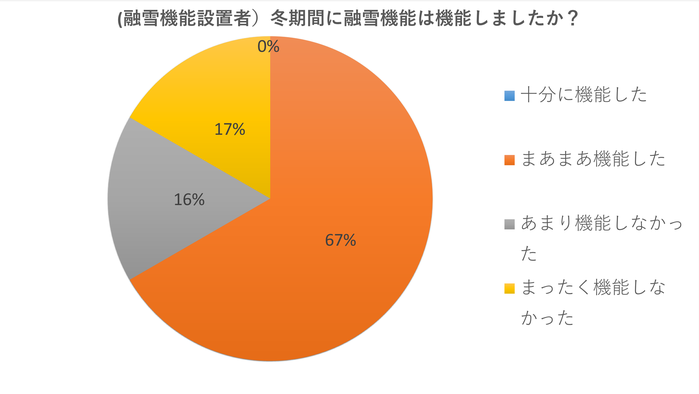
Q7と同じ

Q9
冬期間の発電量の低下はありましたか



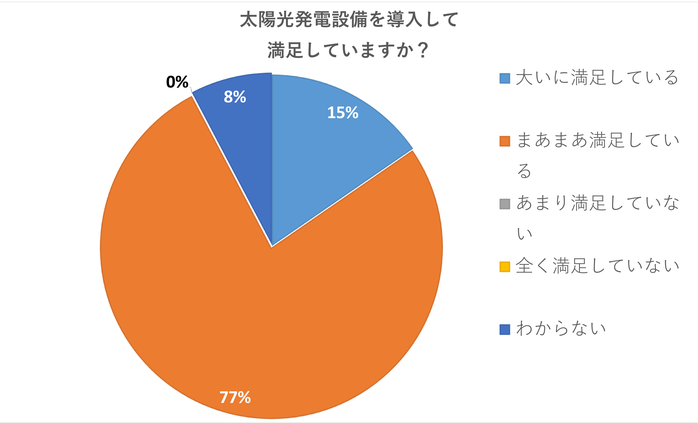
回答者の約７割が「低下していた」(69%)との回答でした。冬期間は日照時間の減少や積雪などの影響により、発電量の低下が見込まれることが分かります。

Q10
冬期間に融雪機能は十分に機能しましたか



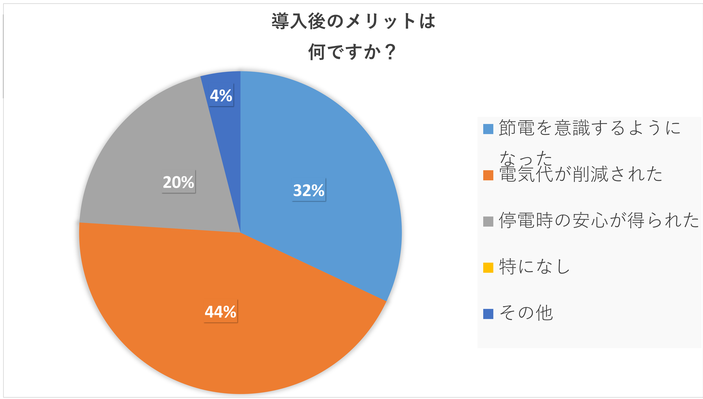
回答者の約７割近くが、融雪機能に一定程度の効果があると回答しています。一方で、約３割が「全く機能しない」(17%)、「あまり機能しない」（16%）との回答だったことから、引き続き融雪機能の効果について注視していく必要があります。

Q11
太陽光発電設備を導入してみて、どのくらい満足していますか



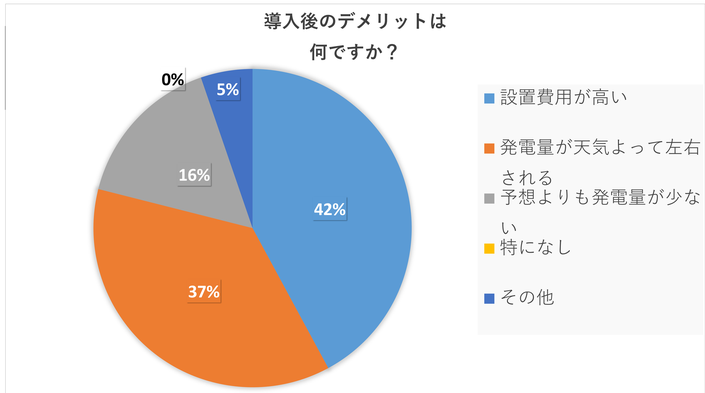
「大いに満足している」（15%）、「まあまあ満足している」(77%)を合わせて９割以上が「満足している」と回答し、前回のアンケート結果(85%)よりも太陽光発電設備の導入満足度が高いことが分かります。

Q12の1
導入後のメリット



「電気代が削減された」(44%)、「節電を意識するようになった」(32%)、「停電時の安心が得られた」（20%）など、電気代の削減による直接的な効果のほか、節電意識の向上、災害時の備えとして心理的安心感の向上にもつながっています。

Q12の2
導入後の
デメリット



回答者の多くが、「設置費用が高いこと」(42%)、「発電量が天気によって左右される」(37%)などをデメリットに感じていることが分かりました。その他に、想定よりも発電量が少なかったとの回答もありました。投資回収や発電量のシミュレーションなど、設置業者とよく相談して導入を検討してください。

■その他、回答者の声（自由回答）
【太陽光導入エピソード】
・春から秋にかけては、晴れた日は日中に家に人がいても全電力を賄えることが出来た。しかし、冬場の3カ月は発電出来ない日も多かった。
・新築の際に施工業者に勧められ、補助金もあることから取り付けを決めた。冬の間は晴れの日が少なく発電されている実感がなかったが、春になり発電量を見ると沢山発電されていて、モニターを見るのが楽しみになった。
・太陽光パネルの性能が向上したので設置した。（10年前に新築したが、その際は高額だったので見送った）
【蓄電池導入エピソード】
・冬場は蓄電量が足りなかったが、夏場は余るので容量の大きさのベストサイズが難しい
・朝夕は蓄電池で対応しているため買電削減が出来ている